

平成30年度 武雄市立武雄中学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b>  高い志と誇りを持ち、 心豊かで輝く生徒の育成	<b>2 本年度の重点目標</b> ①キャリア教育の一層の充実を図り、学ぶ意義を理解させる。 ②出番と役割を与え、承認する「開発的生徒指導」を実践する。 ③コミュニティ・スクールとして、家庭・地域との協働体制の充実を図る。 ④教職員が健康的に日々の業務に従事できる環境整備に努め、質の高い教育を実践する。
--	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

①キャリア教育の一層の充実を図り、学ぶ意義を理解させる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・学習意欲の喚起 ・指導法の工夫改善	・将来の目標や夢を持つ生徒を80ポイント以上にする。 ・ペアやグループでの話し合い活動などに取り組んでいると答えた生徒を85ポイント以上にする。 ・毎日の家庭学習を1時間以上勉強する生徒を70ポイント以上にする。	・キャリア教育の充実を図り、将来の夢や目標を持たせ、学ぶ意義を理解させる。 ・ペア、グループワークを取り入れた研究授業をしたり、互いに授業を見せ合ったりして力量を高める。 ・課題の与え方を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・ICTを利活用したわかる授業の実践	・ICT機器を授業に活かすことができる教職員を95ポイント以上にする。 ・ICT機器を使った授業をしていると答えた生徒を80ポイント以上にする。	・教職員のICT利活用研修会を年3回実施する。 ・ICT利活用した授業実践を校内で公開する。

②出番と役割を与え、承認する「開発的生徒指導」を実践する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・支持的風土づくりの醸成	・学校内外でのあいさつを推進する。 ・学級に居場所があると感じている生徒を85ポイント以上にする。 ・自分の役割や出番があると感じている生徒を70ポイント以上にする。 ・各学校行事に学級が団結し、達成感を味わう生徒を90ポイント以上にする。 ・人権教育、道徳教育の充実を図る。	・挨拶の重要性を理解させるとともに教師自ら率先して挨拶を行う。また、機会捉え、地域住民の声を生徒に届ける。 ・構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングなど実態に応じて計画的に行い、よりよい人間関係づくりに努める。 ・学級・学年・生徒会活動等さまざまな場面において、生徒に役割と出番を与え、承認する場を作り出す。 ・帰りの会等で、他人を思いやる心など豊かな人間性を育む話をする。 ・人権集会や平和集会等を充実させるとともに、生徒の人権を尊重した指導に常に心がける。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめの予防、早期発見、早期対応の体制の充実	・月1回いじめアンケートを確実に実施し、いじめに迅速に対応する。 ・先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれると答えた生徒を80ポイント以上にする。 ・「いじめ」の認知について、再度教職員の共通認識を図り、適切な支援・指導及び未然防止に全職員で取り組む。	・道徳の時間を充実し、人権意識を高めいじめを許さない生徒を育てる。 ・教育相談部会で気になる生徒の情報を共有する。 ・定期的な教育相談及び気になる生徒と必要に応じて個別面談を実施する。 ・いじめに対する職員研修会を開催し、いじめの具体的事例をあげ、該当するか否かの共通認識とその後の対応・処置等について全職員の共通理解を図る。
教育活動	○生徒指導	・組織的な生徒指導体制の充実	・生徒だけの活動をつくらない。 ・不登校の未然防止に努め、不登校生徒を4%以下にする。 ・発達障害を持つ生徒やインクルーシブ教育に全教職員が研修を深め、支援体制の充実を図る。	・すべての教育活動において、早めの臨場指導を心がけ、生徒と関わる時間を確保する。 ・保健室来室者や欠席者、気になる生徒を全職員で把握し、対応する体制を強化し、予防や早期発見に努める。 ・気になる生徒に対して、初期の段階で問題解決を図り、深刻な問題へ発展しないように組織的に早期対応を行う。 ・特別支援教育に係る職員研修の充実を図る。 ・個々に応じた「支援計画・指導計画」を作成し、計画的に指導に取り組む。

③コミュニティ・スクールとして、家庭・地域との協働体制の充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○家庭・地域との協働体制の充実	・地域とともにある学校づくりの充実	・地区行事に参加している生徒を60ポイント以上にする。 ・地域に支えられていると感じている生徒を80ポイント以上にする。	・地域学校協働本部「武中のちから」と生徒会の連携を推進する。 ・区長会と連携し、地区行事を把握する。部活動においても地区行事優先で参加させ、地域住民の指示のもと生徒に任せられる手伝いなど積極的に活動させる。
学校運営	○情報発信	・情報発信の充実	・月2回「学校だより」を発行し、情報を発信する。 ・学校は、生徒の情報を学校だよりやホームページ、学校伝言板等で知らせていると答えた保護者を80ポイント以上にする。	・ホームページのブログや学校伝言板のメール等で学校行事等生徒の様子をこまめに発信する。 ・ホームページのトップページやアップするコンテンツ等を見直す。

④教職員が健康的に日々の業務に従事できる環境整備に努め、質の高い教育を実践する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・長時間労働の解消	・勤務時間を意識して効率的に仕事をしたと答えた職員を85ポイント以上にする。 ・定時退勤日の実施を徹底し、定時退勤日には5時30分に退勤したと答えた職員を80ポイント以上にする。	・各教職員は業績評価表(自己目標申告書)に勤務時間を意識した働き方についての目標、方策を設定し、それを実行し評価を行う。管理職は業務記録票やヒアリング等をもとにそれを指導し、職場全体の業務改善を推進する。 ・月曜日を定時退勤日、金曜日を準定時退勤日とし、それぞれ5時30分、7時退勤を徹底する。
		・より適正な部活動運営	・顧問は部活動練習計画を毎月作成し、休養日を適切に設定し実施する。	・毎月第3日曜日は「県下一斉部活動休養日」とし、部活動を実施しない。 ・休養日を適切に設定し、活動と休養のバランスを図った部活動運営を徹底する。
		・健康管理体制の充実	・超過勤務時間の平均が80時間を超えないようにセルフケア及びラインケアに取り組む。 ・健康管理体制の充実に向けた職員研修を実施する。	・衛生委員会を月1回実施する。 ・中体連終了後、6か月以上の超過勤務時間の平均が80時間を超えた職員については産業医による面談を実施する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・給食を感謝して味わわせる。マナーを守って給食をいただき、感謝して残さず食べている生徒を85ポイント以上にする。 ・家庭と協働した食習慣を支援する。 ・早寝、早起き、朝ごはんの推進を図る。睡眠時間を6時間以上取れている生徒を65ポイント以上にする。	・全職員が4校時終了後5分以内に教室に向かい、準備や配膳・後片付けがスムーズに進むように指導する。 ・生徒に食生活の大切さを伝えるため、個別や部活動単位での食事指導を行い、食についての意識向上を図る。 ・食に関する授業や給食便りの発行を行う。 ・睡眠の大切さを伝え、睡眠時間を6時間以上取ることを目安として健康増進を図る。
学校運営	○危機の未然防止	・安全・安心な生活環境の確保	・学校は、安全して過ごせる学校だと実感できる生徒を80ポイント以上にする。	・毎月の安全点検を確実に実施し、避難訓練・交通安全教室等計画的に行い、生徒・教職員の安全の確保、事故防止に対する意識を高める。 ・登校時における交通指導を毎日行い、交通事故防止に努める。

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目